



西小校長室だより

令和7年度 9月号

(文責 妹尾)

2学期が始まりました

夏休みが終わりました。子どもたちにとっては「終わってしまいました」なのかもしれませんね。暦は9月となりましたが、外気は依然夏と変わらない蒸し暑い状況です。夏休みの終盤は、長い休みが過ぎ去るむなしさや、



溜めてしまった宿題に追われる悲しさで虚脱感にさいなまれていた子もいたのではないかと思います。はるか昔、私の小学校時代の記憶には、実際そんな心苦しさが残っています。2学期初日、本当によくみんな学校に来てくれました。まずはそのことを嬉しく思います。校舎には、にぎやかな子どもたちの甲高い声が飛び交い、久しぶりに活気が戻ってきました。体育館での始業式は大型の扇風機をフル稼働していましたが、やはり暑い。運動会をはじめ今後の活動にも十分な注意が必要であることを痛感しました。また、久々の学級活動ではしっかり先生の話を聴く姿が見られ、子どもたちが

少しずつ学校生活に気持ちをシフトしているようにも感じました。西小学校は今学期も、子どもたちが楽しんで通える学校を目指します。どうぞよろしくお願いします。



熊は人間の敵？それとも・・・

今日の3校時に1年生が熊の学習会を行いました。島根県東部農林水産振興センターより2名の講師にお越しいただき、熊の生態に関して講習をしてくださいました。昨今、熊による人や作物等への被害の報道をよく見聞します。すっかり人間と敵対する危険な動物という印象が強い熊ですが、本州に生息するツキノワグマに



ついて、まずはその生態(生活の様子、食べ物、臆病な性格など)を知ってもらおうと、動画を交えながら教えてくださいました。山から里に下りてくる背景について、里には

いつでもエサがあると誤学習させないために私たちにできること(庭の果実はすぐに収穫することなど)、熊と出会わないための対策についてもお話しいただきました。また、万が一熊に遭遇してしまったときの対処法や身を守る姿勢(頭・首・腹を守る体勢も教わりました。本

【※西小ホームページのアーカイブを抜粋・加筆しています】

物の熊の毛皮や、生まれたての赤ちゃん(大きさ・体重は実物大)にも触れさせてもらい、「かわいい」とテンションが上がった子どもたち。少しだけ熊について詳しくなりましたが、出会ってしまうと危険な獣であることを忘れてはいけません。冬眠前の9・10・11月あたり、山道を単独で行動しないなど、対策を講じていきたいと思います。



稲刈り完了～おいしいお米になりますように～

9月5日午前中いっぱいを使って、5年生が「チャレンジ田んぼ」の稲刈りを行いました。この田んぼを提供いただき、土づくりや田植え、水の管理など、ずっとお世話



いただいている澤和さんをはじめ、地域有志の方々や保護者のお力も借りながら、約5a分の稲を刈り取ることができました。この田んぼは減農薬で栽培していること

や、雨が少なかったことなどが影響し、稲の間には稗(おそろくイヌビエ)が大量にはえていました。まずはその雑草取りからの作業です。心配された雨は降らずに作業できたものの、湿度が高くみんな大粒の汗をかきながらの活動でしたので、水分や塩分を補給しつつ稲を刈っていきました。

稲刈り機のバインダーも操作させてもらい、子どもたちの中には、すっかり板について、早速農家さんの助手を任せたくなる人もいました。手で刈るのはやはり体力が削られますが、なんとか12時前には全部刈り取ることができました。ハデに干すため、3日前に見よう見真似で「よりない」をした縄を使い、10株ずつ束ねていきました。しかしこの作業が意外と難しく、すぐに縄が緩んでしまいま



す。縄を結び直す人、束ねた稲をハデまで懸命に運ぶ人、落ちた稲穂を集める人など、今の自分にできることを探しながら作業を進めました。いろんな体験の中から学ぶべきことは多いと思います。みんな暑い中よくがんばりました。そしてご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

おいしいお米になりますように！

運動会応援合戦に向けて

9月27日(土)に実施する運動会の目玉の一つでもある応援合戦を見据え、各4色が色別集会を6回開きます。その第1回を9月9日(火)に行いました。6年生が西小のリーダーとしての意地とプライドをかけて、熱く盛り上げながら下学年を引っ張っていく見せ場でもあります。初回ということもあり、スローガンや歌など声を出す練習が多かったようです。中には動きをつけた練習をしている色もありました。まだ6年生も下学年も表情は硬いようですが、第2回、第3回と、この色別集会の中でどのように変わっていくか、とても楽しみです。もちろん5年生以下のフォローシップもとても重要です。6年生の指示で動く一体感と高揚感を全身で感じ取ってほしいと思います。次回の「校長室だより」にて当日の様子をお伝えします。



PTA 奉仕作業 ありがとうございました

夏の間に雑草が青々と校庭や中庭、いわくま等々に生え茂っていました。8月24日(日)には太陽が照りそそぐ暑い中、PTA 並びに地域の皆様に草刈りを中心とした作業にご協力いただきました。運動会を控え、きれいにしてもらった中でしっかり学び、思いっきり運動したいと思います。ありがとうございました。

校長所感 ～ 感情と理性 ～

少し前のことですが、ふとある記事が目にとまりました。『子どもたちのケンカ 三流は「すぐ謝らせる」、二流は「両成敗」、一流は?』

一流はどうなんだと気になり、記事を読み進めました。どうやらこの記事は、2000年以上前から語り継がれるストア哲学を、現代人のためにわかりやすく解説した一冊『STOIC 人生の教科書 ストイシズム』(ブリタニー・ポラット著)を解説したものでした。

「ストイック」と聞くと、多くの人は「我慢強い」「禁欲的」といったイメージを持つかもしれません。しかし、本来の「ストイシズム(ストア哲学)」は、感情に振り回されず、理性を持って人生をより良く生きるための「思考の技術」なのだそうです。ストイシズムは、まず「自分が今、どんな感情を抱いているか」に気づき、それを一步步引いて観察することを教えているようです。

具体例としては、

- ・ 怒りが湧いた時→「この感情は正当か?」「自分は本当に傷ついたのか?」と冷静に考える
- ・ 不安に襲われた時→「今、自分ができる最善の行動は何か?」に意識を切り替える

しかしながら、私たちは人間は感情の生き物です。頭では分かっている、そこに感情は存在します。子育てにおいては、その典型と言ってもよいでしょう。

最初のケンカの話に戻りますが、ある児童施設で小学4年生の男の子数人がケンカを始めたので、支援員が「どうしたの?」と声をかけたら、「こいつがウザいっ

て言うから」と数人が A 君を指さした、というシチュエーションです。

ここで「ウザいなんて、そんな言葉を使うのはよくないでしょ」と諭したり、「B 君たちも良くないところあったんじゃない?」と大人の勝手な解釈で解決させたりすることは私たちの日常でもよくある気がします。



この支援員は、なかなか言葉の出ない A 君から丁寧に話を聞き出しました。すると、「明日の遠足が楽しみで気持ちが落ち着かない」ことが分かり、ソワソワした気持ちが「ウザい」という言葉になってしまったようなのです。このように、本当の気持ちを表現できないまま、とりあえず謝ることを繰り返すと、子どもは常に不本意で、本音を隠すようになってしまいます。

一見、他人が悪い行動をしたように見えても、自分が知らないだけで、正当な理由があることはたくさんあります。逆によい行動に見えるものでも、実は利己的な考えやよこしまな思いから行っている場合もあります。自分から見えているものは、一部でしかないから、性急に「よい、悪い」の判断ができません。

ただ、日々子育てに奮闘する中で、目の前の出来事に対し常に「もしかしたら違う考えがあるかも」などと時間をかけて問答することなど到底できないでしょう。裏を返せば、タイミングを逃さず、その場でしっかり叱ることもある意味大切なことだと思います。つまりは子育ても、学校における教育もすべてはバランスだと思うのです。親も教師も人間ですから、当然感情はあるし、表に出ます。それをただ抑え込むのではなく、「感情とうまく付き合う方法」を知ることが最も重要なのだと思います。

私たちは日常の中で、他人の言動や出来事に心を乱されがちです。たとえば、理不尽な言葉をかけられた時、SNSでの反応に一喜一憂した時、あるいは将来の不安に押しつぶされそうな時...そんな瞬間にこそストイシズムは力を発揮すればよいのです。「それは自分がコントロールできることか?」「自分の反応は理性的か?」と問いかけることで、冷静さを取り戻し、心の安定を築くことができるからです。



芸人のビートたけしさんの言葉で「深いー(古!)」と感じたものを紹介します。「努力は宝くじを買うようなもの。買ったからといって必ず当たるとは限らない。努力をしたからと言って必ず成果が出るとは限らない」...そうですね。「努力は裏切らない」という言葉もありますが、何をもって裏切りと考えるのか、ということです。目に見える成果でなくても、必ず努力の爪痕は残っているはずです。

子どもの言葉や行動の背景にあるものをしっかり見つけ、よりよく自律するための支援を今後もこころがけていきたいと思います。

学校のホームページの「児童の様子」を日々更新し、子どもたちの様子をお伝えしています。どうぞご覧ください。